

●小学生の部

協会一等賞 岡本一城 おかもと かずき

ぼくは先日、元アメリカ大統領のブッシュ氏が亡くなった。というニュースを見ました。車イスを使うブッシュ氏には、介助犬がいました。ラブラドルの「サリー」です。ブッシュ氏のひつぎの前に座っているサリーの横に、「任務完了」と書いてありました。主人を亡くしたサリーは、この後どうなるのか心配になりました。記事には、ウォルター・リード米軍医療センターで、負傷した退役軍人のためのファシリティドッグになると書いてありました。「ファシリティドッグ」という言葉を初めて聞きました。調べてみると、患者さんに寄りそい心を癒すなど、治療を支援する犬のことでした。サリーの行く場所があり、安心しました。でも、主人を亡くして落ち込んでいるだろうに、また人間のために働くサリーは、かわいそうだと思います。「ファシリティドッグ」について調べていたら、「警察犬」や「盲導犬」聴覚障害者に音を知らせる「聴導犬」PTSDなどの影響を和らげる「セラピー犬」低血糖を知らせる「低血糖アラーム犬」保護された犬を囚人が世話をし、囚人が犬から愛や命の尊さ、達成感を学ぶ「プリズンドッグ」など、人間のために働いてくれる犬がたくさんいることを知りました。そして、守ってあげなくてはいけないと思っていた犬にこんなにも助けてもらっていたことを知り、おどろきました。

こんなにも人間のことを支えてくれている犬を、人間は大切にできているのか、不安になりました。捨て犬を保護したり、犬のために募金活動をしたり、犬の里親を捜したり、犬のために活動してくれている人がたくさんいます。ですが、犬を捨ててしまったり、ぎゃくたいする人がいることも事実です。

飼い主の責任とは、犬を大切に、命が終わるまでかわいがりお世話をすることだと思っていました。ですが、今回サリーや犬について調べてみて、それだけが飼い主の責任ではないと思いました。生活していく中で、犬が困らないようにしつけをすること。育てられない赤ちゃんを産ませないこと。自分が入院するなど、飼っている動物のお世話ができなくなった時、動物のお世話をどうするのか考えておくことも飼い主の責任だと思うようになりました。

犬や動物達みんなを幸せにするために、ぼくにできることはないか、考え、調べました。ぼく自身が、動物を大切にすること。募金活動に参加すること。小学生のぼくにもできることはたくさんあることが分かりました。そして、これ以外にやりたい活動ができました。それは、ぼくの知り合いに、犬が人間のことをどれだけ助けてくれているか。そんな犬が人間によって捨てられたり、ぎゃくたいされている現状について。そうならないために、命を大切にすること。かわいがるのはもちろん、それ以外にもある飼い主の責任について伝えていくことです。それを聞いた人に、このことを一人二人ずつにでも広めてもらうことです。小学生のぼくには、世界に何かを発信する力はありません。ですが、ぼくが五十人の人に伝え、その人が一人二人ずつに広めてくれたら百五十人の人に伝わります。さらにその百五十人の人が一人二人ずつに広めてくれたら、よりたくさんの人へ伝わります。クラスメイトから、学校中へ。近所の人から町全体へ、町から県の人。ぼくだけでは無理ですが、みんなの力をかりて、少しずつ伝えてもらえれば、いずれ、日本中、世界中にこのことが伝わると思います。小さなことですが、日本中、世界中の動物達が幸せに暮らせるよう、今すぐに活動していこうと思います。